

「甲信文園」に昨年1年間掲載された作品を対象に、各選者が選出する「最優秀賞」「優秀賞」がそれぞれ決まった。

文園賞 受賞者決まる

2022.1.6

短歌



古屋正作選

◇最優秀賞・沢登清一郎さん（笛吹市）の作品

束の間の昼寝は葡萄棚の午後後に備えるシルバー忙し
遠き日の空襲警報思わせてコロナを恐る町内放送

空想と知恵で遊べる子等なるに液晶画面がその芽を奪つ
体の良き自宅軟禁かウィズコロナ昭和歌謡に心癒やさる
国会に「世襲夜曲」の流るるに調子合わせて「無策旅情」も
◇優秀賞・武井しん子さん（笛吹市）の作品

「うんざり」が幾日も続く御時世に「鬱」に負けない漢
字が欲しい

見過ぎるとわからなくなる基準色つる日差しに桃挽ぎ
続く

周波数を隣の畑に合わせればステレオとなり気分盛り上
ぐ

自販機はマスク無しでも大丈夫エコバッグの有無を聞い
たりしない

悲しみは指先にまで伝わりて何度も手に取る葉書一枚
△選評▽沢登さん。農業に従事するようになって晩年を
迎えた作者の冷静な目が捉えた、自身を取り巻く環境の
実態と反応が淡々と表出された。また政治批判に古びた
流行歌を引用するにあたっては、持ち前の知識と手腕が
発揮された。（「蘇州夜曲」「無錫旅情」のもじり）

武井さん。日常生活の折々に個性豊かな発想と目線の

△短歌▽ 古屋正作

ウイルスに晴れて今年は決別とマスク
の列の続く神殿

△川柳▽ 小林信二郎

初詣祈りが多く五〇〇円

△俳句▽ 上田正久日

神仏に託す運命や去年今年

新春・選者詠

対象となっていた「鬱」の字に対する偏見や、隣の畑から流れてくるラジオに、曲と音量を合わせてステレオを楽しもうとするなど、奇抜な発想に心引かれる。

「甲信文園」となって3年目に入ろうとしているが、入選歌以外の作品にもそれぞれの風土に育まれた個性が如実に感じられ、興味深く選歌に当たっている。

川柳



小林信二郎選

◇最優秀賞・荻原稲男さん（市川三郷町）の作品

正論が咳して帰る縄のれん
忘れたよ苦い涙を流した日
人生は無駄があるから面白い
本心は見せずに開く自動ドア
失敗も隠しませんよ年の功

俳句



上田正久日選

◇最優秀賞・大久保富美子さん（大月市）の作品

受験子に付き添ふ父や夢重ね
シャッターに覗く未来や七五三
立冬や父母を送りし空の色
転動の鳥より届く栄螺かな
陽の恵み風の恵みや柿簾

◇優秀賞・白川美知子さん（北杜市）の作品

自爾とけ旅空広し鳥渡る

夕まぐれ银杏黄葉のほの明り
木犀の香りなつかし駅におり
祭笛遠くなつかし日暮どき
初みくじ畳み直して懐へ

◇優秀賞・筒井益子さん（飯田市）の作品
初詣命新たに生きる意地

喉越しが良くてあなたの妻となり
咲き誇る視線はいつも上を向く
夕暮れて誘うのれんの灯が恋し
決めた道揺れる日もある雨もある

△選評▽萩原さんの作品は「年の功」の句のように自身
を見つめてしっかり安定した句を詠まれます。年間通し
て佳句が続くのが良いと思います。

筒井さんの作品は女性の句にありがちな内向きな句で
はなく、前を向いた句が多かったです。それも性急な頑
張りではなく、地に足をつけて生き方に共感を得ました。
昨年はコロナ禍のためか暗い、固い句が多く見られま
した。今年は明るい、ユーモア句もお願いします。

◇昨年のユーモア句

川柳を詠んでる人は呆けません	甲州 豊岡 正仁
太陽をタタで使って金儲け	昭和 大森 隆
検診の前後で変わる酒の味	長野 武田 英之

△選評▽大久保さんは昭和29年頃から俳句をはじめた常
連で、毎回熱心にご応募されています。家族を句材にし
た作品が多く、ほほ笑ましい風情が目に見えられます。
それだけに共感を得るものが多いと思います。ともする
と感情に溺れそうになりがちですが、しっかりとした目
で落ち着いた句柄になっています。

白川さんの作品は、生活環境の中から素直に表現した
ものが多く、一読して納得する句柄です。日常の体験を
無理なく句作している点は素晴らしいと思います。身の
回りのなんでもない事柄の中にも句材はたくさんありま
す。

作品を募集

はがきに何首、何句でも。
住所・氏名・電話番号と短歌、

俳句、川柳を明記して、〒400-0858甲府市
相生1の2の31 大同生命甲府ビル5階毎日新聞
甲府支局文芸係へ。長野県の読者の作品も歓迎し
ます。掲載作は本社電子媒体にも収録します。